

愛知東邦大学 シラバス

開講年度(Year)	2024年度	開講期(Semester)	前期
授業科目名(Course name)	音楽科教育法		
担当者(Instructors)	水野 伸子	配当年次(Dividend year)	2
単位数(Credits)	2	必修・選択(Required / selection)	選択

■ 授業の目的と概要(Course purpose/outline)			
<p>学習指導要領「音楽」の示す目標及び内容や、児童の認識・思考、学力等の実態や発達の様子を理解する。教科書教材の指導に必要となる基礎的な知識・技能を身につけ、情報機器及び教材の効果的な活用法を理解し、具体的な授業場面を想定した授業設計と学習指導案の作成を行う。模擬授業を実施し、評価の考え方を理解し授業改善の視点を身につける。</p>			

■ 授業形態・授業の方法(Class form)	
授業形態(Class form)	演習
授業の方法(Class method)	講義ならびに演習形式で行う。模擬授業ではディスカッションを、音楽づくりではグループワークやアクティブ・ラーニングを取り入れる。原則は対面で行い、2回程度リモートを取り入れる。提出された課題はコメントをつけて返し、次の授業で全体交流する。

■ 各回のテーマとその内容(Each theme and its contents)			
回数(Num)	テーマ(Theme)	内容(Contents)	メディア区分(Media)
第1回	本授業の目的と授業計画及び学習指導要領「音楽」の示す目標と関連付けた自己課題の設定	学校教育に音楽の教科があるのはなぜか。音楽科教育が担う役割、新学習指導要領が示す目標、それらと関連付けて本授業の目的を理解するとともに、自己課題を明確にする。	<input type="checkbox"/>
第2回	教育に関する基本的な法律の理解	基本となる法律の内容を踏まえて教育の意義や目的を理解する。児童の多面的な音楽活動を分野と領域に分けて整理し理解する。	<input type="checkbox"/>
第3回	音楽科教育の歴史の変遷	明治の学制改革から現在までの音楽科教育における変遷を学び、現在の学習指導要領の理解とともに「芸術としての音楽」のあるべき姿について、問いかけ考えようとする意識を持つ。	<input type="checkbox"/>
第4回	音楽的な見方・考え方の理解	3年生教材曲を例に多様な演奏形態・アレンジによる演奏を視聴し比較分析する。その上で「音楽的な見方・考え方」を働かせることがどういうことかを自分の言葉で説明する。	<input type="checkbox"/>
第5回	音楽科教育の歴史の変遷：情報機器を用いた唱歌による教材の効果的な活用法	日本音楽と西洋音楽の様式の違いを、現在の音楽教育の基礎となる唱歌を例にグループワークを通して比較分析し、情報機器を用いた効果的な活用法を意見交流しながら議論する。	<input type="checkbox"/>
第6回	小学校学習指導要領（音楽）「音楽科の目標」の理解	「学習指導要領」の音楽科の目標に書かれている内容を、一つひとつの文言の理解から整理して理解する。	<input type="checkbox"/>
第7回	表現（歌唱）の内容と発達段階に即した音楽学習指導理論・指導案の理解	表現領域の「歌唱」分野の授業を疑似体験し、授業のねらいや具体的な指導方法を理解する。	<input type="checkbox"/>
第8回	表現（歌唱）の内容と表現を引き出す指導の留意点、指導案の作成	西洋音楽とは異なる日本音楽の旋律の特徴や味わいを感じるとともに、それらを生かした指導を指導案に沿った授業の疑似体験から理解する。	<input type="checkbox"/>
第9回	表現（音楽づくり）の内容と指導の留意点、及び指導案の作成	西洋音楽とは異なる日本音楽の旋律の特徴や味わいを感じるとともに、日本の音階を使った音楽づくりの指導を授業の疑似体験から理解する。	<input type="checkbox"/>
第10回	表現（器楽）の内容と指導の留意点（アクティブ・ラーニング）	反復、呼びかけとこたえ、変化などの音や音楽のつなげ方、重ね方から音楽の仕組みを学び、楽曲を理解するとともに、思いや意図をもって全体のまとまりを意識した表現を、体験を通して学ぶ。	<input type="checkbox"/>
第11回	鑑賞領域の指導内容と留意点、及び指導案の作成	小学校6年生の鑑賞教材《交響曲第5番「運命」第1楽章》を用いた授業を指導案に沿って疑似体験し、音楽の仕組みを手がかりに、能動的・創造的に鑑賞する方法を理解する。	■
第12回	児童の発達に沿った教科書の内容の理解と指揮法	発達段階に則した1～6年生までの教科書の内容を理解する。歌唱・器楽表現をより効果的に活かすリズムパートの作り方の工夫や演奏技術を学ぶ。	<input type="checkbox"/>

第13回	指導案の作成	歌唱・器楽・音楽づくり・鑑賞の分野に分かれてグループを作り、発達段階に則した授業の指導案を作成する。	<input type="checkbox"/>
第14回	模擬授業と授業改善、評価の在り方 (アクティブラーニング)	前時に作成した指導案をもとにグループごとに模擬授業を行い児童の学習を充実させていくための授業の改善点を明らかにする。	<input type="checkbox"/>
第15回	児童の認識・思考、学力等の実態を踏まえた教材曲の分析と音楽表現のあり方	小学校国語の教科書にある「私と小鳥と鈴と」の詩に別作曲家による演奏を音楽を特徴づけている要素・音楽の仕組み、及び児童の認識・思考などの2観点から比較分析し音楽表現のあり方を論じる。	<input type="checkbox"/>

■授業時間外学習（予習・復習）の内容(Preparation/review details)

事前学習として、次の授業で学ぶ歌唱共通教材の歌詞を読みリズムと音程を別々に読譜した上で、鍵盤楽器で弾けるよう練習をする(2時間程度)。事後学習では、授業で出された課題をテキストに記入する(2時間程度)。

■課題とフィードバックの方法(Assignments/feedback)

提出された課題やレポートは添削して返却し、次回の授業の中でフィードバックする。

■授業の到達目標と評価基準(Course goals)

区分(Division)	DP区分(DP division)	内容(DP contents)
思考力・判断力・表現力	◆ 2019子ども発達DP2	学習指導要領「音楽」の示す目標及び内容を理解し、表現及び鑑賞の活動において音楽的な見方・考え方を働かせた学習指導理論を踏まえ、教科書教材を用いて具体的な授業場面を想定した授業設計を行うことができる。
主体性	◇ 2019子ども発達DP3	教材曲の楽を特徴付ける素から分析し、それを生かした表現をする児童の姿を具体的にイメージして指導案を作成することができる。

■成績評価(Evaluation method)

筆記試験(Written exam)	実技試験(Practical exam)	レポート試験(Report exam)	授業内試験 (in-class exam)	その他(Other)
			50%	50%

授業内試験等(具体的内容)(Specific contents)

授業内試験では、授業のまとめとして小学校音楽の内容に関する筆記試験を予定している。

■テキスト(Textbooks)

No. (No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN (ISBN)
1	「小学校学習指導要領解説 音楽編」(平成29年6月告示 文部科学省)	9784491034652
2	小学音楽「音楽のおくりもの1～6」全6冊(教育出版)全6冊	9784316203973-3
3		
4		
5		

■参考図書(references books)

No. (No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN (ISBN)
1	有本真紀・阪井恵・津田正之編著：教員養成課程 新版 小学校音楽科教育法(初等教育コース) / 教育芸術社	
2		
3		
4		
5		